

佳作】「大好きなビビンバ」

梨の里小学校

増田 吏桜

日直の子が

「手を合わせてください。」

みんなが一つになるしゅん間です。

「いただきます。」

みんな一斉に食べ始めます。今日のメニューは、ダントツ一番人気のビビンバ。私は梨の里小学校に入学するまでビビンバなんて一度も食べたことがありませんでした。最初見た時は、まぜご飯みたいだけど、家で食べるのはちよつと違って、ほうれん草や見たこともないものが入っていて、ちよつと嫌な感じでした。どんな味がするのか不安だったので、周りのみんなが食べ始めるのを待ってから食べることにしました。様子を見てみると、みんなとてもおいしそうに食べているので私も食べてみることにしました。一口食べると、お肉の味がご飯にしみて、すごくおいしくてびっくりしました。見たことのない野菜も全然気にならずに食べれました。

四年生の時、家族でビビンバの話題になり、家でお母さんが作ってくれました。お姉ちゃんと楽しみに待って、でき上ったビビンバを一口食べた私達は

「何かちがうね。」

「給食の方がおいしい。」

「ちよつとからい。」

と言つて、お母さんをつかりさせてしまいました。それからずつと、私の家ではビビンバが登場することはありませんでした。

六年生になったある日、安城市学校給食協会のホームページにビビンバのレシピがあるのを見つけました。お母さんに話して、お姉ちゃんと三人で作つてみました。材料をそろえるために買い物に行き色々なものが入っている事を知りました。玉子焼きは作つたことがあるけれど錦糸卵を作るのは初めてで、卵をうすく、やぶれないように作るのは、とても難しかったです。できあがつたビビンバは家族五人で食べました。すごくおいしかったけれど、学校のビビンバとは少し違いました。お母さんに言ったら、

「給食センターの人達はプロだからしかたがないね。でもこれもおいしいよ。」

と言つてくれました。私もお姉ちゃんもその意見に賛成でした。

それから私の家では、お母さんがときどきビビンバを作ってくれています。給食はあと三年間しか食べれないけれど、ビビンバは、この先ずつと食べることができてうれしいです。